

2021年1月野菜概況

全国の気温は上旬低く、下旬高め。東日本日本海側は記録的大雪、西日本日本海側は多照。

全国的に気温は上旬が低く、下旬には高くなり、気温変化が大きい月となった。東日本日本海側では上旬を中心に大雪ともなった。関東では降水量が少なく、多くの品目で干ばつや低温の影響から生育停滞が起きた。下旬になると降雨あり、気温も上昇して生育が回復し、増量傾向となった。1月の野菜総入荷量は113,571t(前年比95%)で平年よりわずかに少ない。価格249円(106%)は平年よりわずかに安。金額は28,254百万円(101%)で平年を2割近く下回った。

だいこんは千葉・神奈川産が低温や干ばつの影響で小ぶり傾向、数量は少なめの出回り。総入荷量は平年よりやや少なく、価格90円(120%)は平年並み。**にんじん**は千葉・埼玉産が低気温により収穫効率が低く落ち着いた出回り。緊急事態宣言の再発令で引合い高まり上旬に相場上昇するも中旬以降は荷動き鈍化。総入荷量は平年並み。価格141円(109%)は平年比1割以上高。

はくさいは茨城産が降雨がないことから圃場でのロス分が少なく、荷動きはありながらもそれを上回る潤沢な出回りで安値が続いた。総入荷量は平年より1割多く、価格37円(62%)は平年の半値となる水準。**キャベツ**は愛知・千葉・神奈川産が低温・干ばつにより小玉傾向。落ち着いた出回りで相場上昇するも荷動き鈍化により下落する、相場の揉み合いが続いた。総入荷量は平年よりやや少なく、価格99円(146%)は平年並み。**ほうれんそう**は茨城・群馬産中心に関東産の出回りで、月後半に冷え込みから露地物が減少する場面はあるもハウス物は安定した出荷に。総入荷量はやや多かった前年より1割少ないが平年並み。年末需要で高まっていた価格からは下落傾向で推移。価格610円(116%)は平年より1割近く高。**ねぎ**は低温・干ばつにより葉のイタミが出て数量少なめかつ細め傾向。また、下等級は中国産の不作で国産の業務需要高まり引合いがあった。総入荷量は平年より1割少なく、価格422円(160%)は平年の4割高。**レタス**は静岡・兵庫・香川産を中心に低温・干ばつから生育停滞。少なめの出回りでやや高値で推移した。1月下旬の降雨後は生育が回復に向かった。総入荷量は平年より1割少なく、価格229円(117%)は平年よりやや安。

きゅうりは高知・宮崎・千葉産中心の出回り。月前半は天候良く安定した出荷も、後半は曇天・低温から減少。下旬には恵方巻き需要は例年ほど盛り上がりはあらずも、量販店特売あり。不足感高まるが相場上昇は小幅に留まった。総入荷量は平年並み、価格389円(64%)は平年の2割近く安。**なす類**は高知産中心に低温から多くない出回り。荷動きは停滞していたが数量の少なさから価格は月後半にかけて上昇した。総入荷量は平年並み。価格461円(99%)は平年並み。**トマト**は主力の熊本産が月後半の減少予想に反して潤沢に出回り、量販体制整わず荷動きが停滞して安値となった。総入荷量は平年より1割多く、価格299円(89%)は平年より2割以上安。**ピーマン**は高知・宮崎産が上旬は年末年始分のまとまった出荷となり数量潤沢。中旬からは出方が落ち着き、特売による引合いもあり相場上昇。総入荷量は平年より1割以上多く、価格604円(86%)は平年比1割近く安。

ばれいしょ類は中旬に日本海側で大雪となりコンテナ便が止まる輸送の乱れが起きた。九州産地も雪で掘り取り・選果ができず不足して高騰。輸送復旧後も九州産の不作と道産の少なさから不足感あり高値が続いた。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格199円(229%)は平年の5割高。**たまねぎ**は北海道産が降雪による輸送の乱れで引合い高まる場面はあるも復旧後は荷動き鈍め。静岡産は例年より低い価格帯でスタートし、春商材としての需要もあり荷動き良好だった。総入荷量は平年よりわずかに多く、価格94円(99%)は平年比1割近く安。

【輸入野菜】かぼちゃはメキシコ産で低温により生育が遅れた分の収穫が一気に進んだことで輸入量は前年比で大幅増。一方、ねぎは中国産の作付減と天候不順により前年比で大幅減。にんじん・たまねぎは国産品の充足に加え、コロナ禍での外食需要の低迷により前年比で大幅減。